

No.13

2002. 12. 1

# 地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人  
地球の木 理事会  
■発行責任 横川芳江  
■編集 広報部  
■事務局 〒231-0032  
横浜市中区不老町1-3-3  
フェニックス閣内2F  
TEL 045-228-1575  
FAX 045-228-1578  
E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp  
<http://homepage1.nifty.com/EarthTree>

## CONTENTS

- 愚かさに気づく時 ●えっ！シンプルなくらしが平和につながるの？ ●ニューリッチマンの省エネ生活紹介
- 支援地から ●わかばのコーナー ●ビデオテープの貸し出し ●活動日誌 ●「地球の木」カレンダー発売中

## 愚かさに気づく時…

副理事長 丸谷土都子



### 「豊かな暮らし」を求めて

「暮しの手帖」をご存じですか？1948年から続いている広告のない雑誌です。12月に300号記念特別号が発行されました。一貫して追い続けたテーマは「『豊かな暮らし』とは『丁寧に暮らす』こと」。平和キャンペーンで訪れた、「カフェスロー」の吉岡淳さんの言葉、「スローな生活とは、手間を惜しまない生活のことです」となんと共通することでしょう！

記念号の中に「愚かなりわが買物」という記事がありました。家庭から出るゴミは年ごとに増えている、冷蔵庫がふえると家庭のゴミもふえる、などの証言が述べられた後、「母はたべものをくさらせなかった」というページが続きます。残り物を捨てることなく上手に利用していた「母」の時代の工夫は今も参考になります。地球の木が伝えようとしていることそのものだと思い、ふとその記事の発行日を見てみると、1973年4月とありました。

### どこまで成長するのか？

ドネラ・メドウズ（「世界がもし100人の村だったら」の元となった文の作者）の著書「成長の限界－ローマ・クラブ 人類の危機レポート」は、正確なデータを元に、世界の人口増加と経済成長がこのまま続けば環境への負荷はどうなるかを調査・分析したものです。28カ国語に翻訳され、世界中にショックを与えました。しかし決して否定的な結論ではありませんでした。「このまま成長が続ければ次の100年の間に地球は限界に達してしまう。しかし持続可能にするならば地球上に住むすべての人が平等に必要な物資を与えられるように、そして誰もが人間としての潜在的実現性を達成できるように、バランスのとれた世界構造を計画するべきで

ある」。この本が出版されたのは、1972年でした。

その後、各方面で持続可能な世界を作るために様々な試みが行われてきました。しかし30年経った今、経済格差はますます進み、各地で紛争が起き、多くの不平等が起きています。争いの背後には天然資源の奪い合いが見え隠れします。勢力を維持し、莫大な利益を得ようとする大きな力が動いています。何年も前に発せられた警告を今こそ自分のものとして受け止め、石油に依存しない「丁寧な暮らし」の文化を作っていくことこそが平和への道であり、これは日本の安全保障にもつながるはずです。

### きっかけづくり

どうしたらこの状況を自分の責任として捉え、行動するようになるのでしょうか？これまでに多くの地球の木の会員が支援地に出かけ、感じ、現地で起こっていることを伝えてきました。スタディーツアーは、参加した青少年の生き方に影響を与えています。自分の生活が世界の苦しみ・争いごとつながっていることを知ることが大きなきっかけとなります。カフェスロー訪問に参加した大学生は、自然体で語る吉岡さんの話を聞いて、「過剰包装や車などの問題を今まで知ってはいたが、『実感』として感じられるようになった」と言いました。

何よりもまず、自分から始めてみることです。年の初めに、誓いを立てて実行してみませんか？「今年は車に頼らず歩く！」とか、「ペットボトルは利用しない！」とか？平和な世界をめざして。きっと健康にもいいですよ。

## えつ! シンプルなくらしが平和につながるの?

日本は世界第4位のエネルギー消費大国です。経済成長と共に消費量が大きく伸びました。1973年ごろから市民生活や運輸に使われる割合が増え、現在は全体の1/4が市民生活、1/4が運輸に使われるようになりました。家庭での電力消費量はエアコンなどの普及により、30年前の約4倍です。

エネルギーの大部分は石油でまかなっています。日本の原油輸入量は年間16億バレル(2000年)。その86%は中東から、イスラム国家からの輸入は93%に及んでいます。液化天然ガスはインドネシア・マレーシア・ブルネイから64.3%、液化石油ガスは中東から84.9%輸入しています。紛争が起こっている場所の多くに豊富な天然資源が埋蔵されていることは決して偶然ではありません。

シンプルな暮らしは平和につながるのです。石油に依存しない生活を作り出し、地元で取れた新鮮な物を食べ、シンプルな生活をすることがたいせつです。自然エネルギーの利用も、エネルギー使用量が少なくなれば大いに期待できます。

ドイツの例をあげましょう。エネルギー消費は増加させずに、脱原子力・脱石油を進める計画を実施しています。電力需要における自然エネルギーの割合を、2000年の6.25%から、2010年には12.5%に拡大することを目指しています。現在、約13万人の人々が、自然エネルギー部門での職を得ていて、経済の活性化をもたらすことを証明しています。

キャンペーンでは、まじめな人だけができるではなく、楽しく、誰でもできるようなアイディアをたくさん集め、様々な年代の人に実行してもらおうと考えました。今までに取材したり、寄せられたアイディアを紹介しましょう。



「カフェスロー」代表吉岡さん(右端)から話を聞く

- 「楽して省エネ」の提案は学習会で招いた田中優さん。様々な温暖化防止活動の中のひとつで、家庭の電気製品を見直し、有効な買い替えをすることで自然と省エネができるというものです。消費量を小さくした上で自然エネルギーを利用すれば石油消費もCO<sub>2</sub>も押さえられます。
- カフェスローの提案のひとつはZOONY運動。ハートボトルを使わずに水筒を持とう、わりばしを使わずにおはしを持ち歩こう。電気を使わない運動の第1号が除湿機。中に入った乾燥剤の色が変わったら、太陽の下で乾かせばよいのです。若者にもアピールする、楽しくてダサくない運動が生まれています。
- 山本富美子さん(地球の木会員) 雨水を利用してトイレと畠の散水に。太陽熱を利用して暖房と夏の給湯に。水道代も灯油代も大節約!

これからも継続して様々な実例を集め、冊子にし、よりたくさんの人の行動につなげていきたいと思います。これはというアイディアがある方はぜひ地球の木までお寄せください。

### P.1で紹介された本

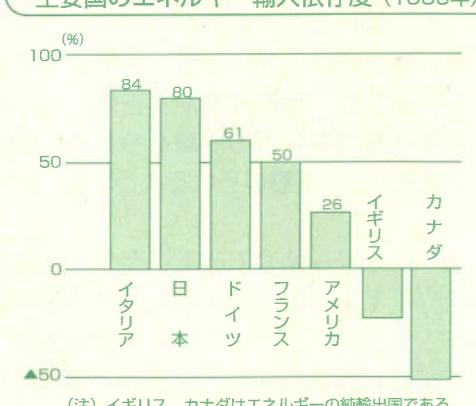
暮しの手帖 300号記念特別号

暮しの手帖社 2002年 1,600円

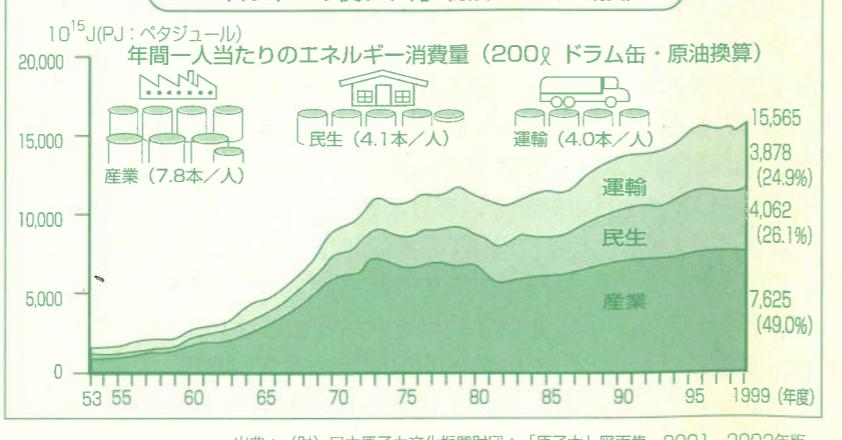
成長の限界—ローマ・クラブ 人類の危機レポート

ドネラ・メドウズ著 1972年 ダイヤモンド社

### 主要国のエネルギー輸入依存度(1999年)



### エネルギーの使われ方(最終エネルギー消費)



ニューリッチマンの  
こんな暮らしもある

## 省エネ生活紹介

Q

日頃どのような生活をされているのか謎が多くインタビュー嫌いなニューリッチマンにお会いすることができ感激しています。スペイダーマンを想像していたのですが少しがっかりしました。

NRM

俺、帰る。

待って下さい。すぐ質問に移ります。なぜニューリッチマンというのですか。

NRM

そおね、実体は計画的貧乏ともいえるけどニューリッチの方が前向きだし、NGO系は英語に弱いから。

Q

この記事は健全なNGOの会報に掲載されますからまじめにお願いします。

NRM

俺、帰る。

待って下さい。ニューリッチマンになるにはどのような条件があるのですか。

NRM

決まった条件なんかない。ニューリッチマン1号の場合、まず金はなくてもいい、といつても1日2食は食べたい。それとどこかに行く場合は歩きを基本に考える。

Q

この前、埼玉の嵐山まで行かれたそうですが鎌倉街道でも歩いたのですか。

NRM

電車で行った。何か質問にトゲを感じるんだけど。ニューリッチマンは臨機応変、軟弱ともいう。でも隣の駅まで1時間位なら歩く。片道150円、月2往復すれば「地球の木」さんの会費になる。

Q

その他あなたの生活で心がけていることは。

NRM

洗濯は手洗い、体を洗う時いっしょにする。面倒だから回数も減る。水も使わなくなるし布地もいたまない。冷蔵庫のない生活はまだ初心者。特に夏場の生活にぎこちなさが残る。

Q

テレビはよその家に行った時の楽しみにとっておく。大型の画面で見たいので各家36インチ位は備えて欲しい。新聞は窓を拭くのに必要な時もあるが、これもよその家に行った時に読んでくる。

Q

アジアの国々を見て、あなたが影響を受けたことは。

NRM

インドに行った時、紙を使わずカップ1杯の水ですますトイレはショックだった。最近のトイレで水が吹き出すのがあるが、自分の手を使わなくちゃいけない。これを読みながら食事をしている人がいるといけないので、詳細説明は省く。ネパールへ行った時には寒いのに水で体を洗い、夜、家の中でマフラーをしているのを見て「これだ」と思った。神奈川で体を洗うのに年4~5ヶ月は水でいける。あとはぬるま湯になってしまふ。それと寒い季節は家中でも厚着をすればいい。夜が暗いこと、月夜の明るいことも再認識した。自然なことなんだけ…

Q

食べ物はどうですか。

NRM

アジアの国へ行ったときに、ご飯(米飯)をたくさん食べることに驚かされる。でもこれはだれにも実行できる。オカズを減らせばエネルギー源をご飯からとるよりしょうがない。私の場合も諸般の事情から最近ご飯が増えている。昔の1人扶持は5合だったんだからもっとご飯を食べるといい。そうすれば減反も解消できるなどと安易なことを、ニューリッチマンは言わない。

Q

あなたは21世紀に生きていることを自覚しているんですか。世界は開発され日々進歩発展してるんです。

NRM

最近「ユウジ」という名前が流行っているそうだけれどそんなの昔のくり返しだ。

Q

一般の人に理解できるように話してください。それにしてもあなたの生活は、かなりみじめに思えますか。

NRM

視野を広げてものを見てほしい。たいせつなのは「想像する心と自立的精神」だ。

「ニューリッチパーソンをめざそうなどという変人がいた場合に一言」という質問者のお願いに答えずニューリッチマンは帰ってしまった。

Q

あなたの回りにも、ニューリッチパーソンはいますか。紹介ください。

## ネパールから

### GOOD NEWS!

人材育成センターでトレーニング始まる  
初トレーナーはニルマラさん



待ちにまつた人材育成センターができた！

ニルマラさんが12歳の時から活動を続けてきたカトマンズ郊外のイマドールに、念願の人材育成センターが完成しました。インド・パキスタン二国間の緊張、マオイストの襲撃を恐れる人々の都市集中化のため、カトマンズは建築ブーム。「建材の価格が急騰したため、資金もローンも使えるものは全部使った。心身ともに疲労困憊」というメールを受け取り、センターの完成はまだ先か、と心を痛めしていました。

ところが、11月初旬に受け取った写真を見てびっくり！4月の調査の時にはまだ殺伐とした工事現場だったレンガむきだしのセンターの外壁はクリーム色に塗られ、コンクリートの床にムシロを敷いて座った会議室にもカーテンがかけられ、見違えるようでした。

資金不足のため、センターの心臓部となるコンピューター、ファックスなどOA機器類までは手が届かないようですが、3階の宿泊施設にはベッドも用意されており、地球の木の会員は泊まることもできます。ぜひご利用ください。

SOARSは、マオイストの台頭で国全体が揺らいでいる今、ともかく国家再建のために必要な活動をやろうと、10月1日から7日間に亘り、選挙を正しく行うためのトレーニングを村のリーダーたちを対象に行いました。残念なことに、選挙は延期されてしまいましたが、ニルマラさんたちは、明治維新の志士たちのような優れたリーダーを輩出するでしょう。私たちは、精神面、資金面でSOARSを支えていきましょう。

(なんぶ 乳井 京子)



民主的な選挙を実現するために…学ぶリーダーたち

## ラオスから

### 「困ったとき」のコメ銀行

支援先カムアン県の村人は、自分たちの生活を守るために様々な努力をしています。森の自主管理自主運営、地域の文化や環境を守る自然農業、女性の力を育てるためのジェンダー研修、情報交換や研修のためのスタディツアー、そして生活向上と相互扶助のためのコメ銀行です。ラオスの主食はもち米です。生のいんげんをかじりながら、ひとつのかごから皆と一緒に手で食べるもち米の味は忘れられない程おいしいものです。しかし、収穫量は1年内8ヶ月から10ヶ月分なので、不足分の食糧はキノコやたけのこ、鳥など森からの恵みが頼ります。

コメ不足が深刻な状況から貧しい農家を助けることを目的に、タイの農村からヒントを得て、支援先の村では1991年からコメ銀行を始めました。私たちが日ごろ利用している銀行は通貨で取引しますが、村では通貨が少ないのでコメで取引します。村人たちは20から30kgのコメをそれぞれ出資し合い、またオーナーになります。コメ銀行からコメを借りて稻を育て、収穫後に借りた量に利子分を加えてコメ銀行に返済するという方法です。

困ったことに、洪水や風雨で収穫がほとんどなかったり、灌漑技術が十分でないので収穫が少なかったりと、返済できない年が続くことがあります。それでも村人たちは、利子だけでも返済したり牛を売って現金で返済したり、「借りたものは返す」というルールを守っています。その結果、病気や死者がでた家庭には利子を免除したり、コメ銀行の収益金で電気を引くことができる村ができました。

このような銀行は、ラオスだけではなくアジア各地域に牛銀行や豚銀行等（親を借りて子が生まれたらその子を銀行に返す）としても活用され、現地の人々の相互扶助に役立っています。

(ほくぶ 飯田 信子)

## カンボジアから

### 子どもたちからの手紙

チャイルドケアセンターの3人の子どもたちから  
地球の木あてに手紙が届きました。

遠いところにいる息子から  
尊敬するお父様お母様へ  
  
お父様お母様に送る手紙が書けて  
今日はとても楽しい気持ちです。  
お父様お母様、おげんきですか。  
僕はここで幸せに生きています。  
なぜなら、ここにはご飯も服もあります。  
お父様お母様、あそびにきてください。  
僕は、お母様お父様、健康で長生きしてください。

トロ村にて、2002年9月6日  
息子のバン・ソッチャイ 15歳  
ポビルカエ中学2年(8年生)  
ありがとうございました。



ソッチャイは、皆から人気がありフレンドリーでよく質問する、活発な子どもです。将来は先生になり、自立したいそうです。

他にも兄のバン・ソッキーや16歳、妹のバン・サッカナー12歳から写真と手紙、プロフィールが送られてきました。

サッカナーは、ゴム飛びが得意で礼儀正しく楽しい子どもで、将来は良い裁縫師を夢見ています。「地球の木の皆さんのおかげで、今私は勉強ができ、センターで幸せな生活を送っていることを決して忘れない」と書いてきました。

ソッキーやは、美男子で、頭がよく将来はお医者さんになりたいそうです。とてもきれいなクメールの文字で手紙を書いてくれました。

エイズを患った母親の体は、弱くなっていますが、子どもたちが良い生活ができ、良い未来が待っていると思うと安心して死ねるといっているそうです。2000年カンボジアで出会った子どもの真剣なまなざしを忘れることはできません。

これからも子どもたちの夢を支えていきましょう。  
(ほくぶ 小泉 恵子)

## フィリピンから

### 戦いは続く

地球の木の支援先ネグロス島・PAP21の中のひとつ、さとうきび農園エスペランサの土地闘争問題が深刻な事態になっています。代々、大地主に雇われて砂糖労働者として働いてきた人々が、長い戦いを経て3年前、農地改革法の下で念願の土地を手に入れました。しかし、地主は、自分たちの畠で働くとする農民に向かって、ブルーガード（ブルーの制服を着ている）と呼ばれる、地主が雇った兵隊に発砲させたり、外に通じる道路を封鎖するなど手段を選ばない行動で農地改革を阻止しようとしています。

10月に来日したエスペランサ農園のニータさんの話では「ここで諦めたらエスペランサでは生きていけない」という決意で、農園の中に砂糖きびの葉の屋根とダンボールの壁でできた家畜小屋のような小屋を作って抵抗を続けました。7月15日、砂糖の刈り取りを続けていたら、私兵が8haの畠に火をつけました。警察は何もしてくれません。裁判所は地主側に「この行動を止めるよう」命令を出し、また9月23日には裁判所から刈り取る権利が出されました。2分の1ヘクタール刈り取った所で私兵が出てきました。警察はまた何もしてくれませんでした。農園のナナイ（お母さん）が私兵にござれて怪我をさせられました。「どこに正義があるのか？」とニータさんは話します。

農園の仲間はサトウキビ畠で働くことができません。食べるものもありません。病人が出ても病院に行くことも出来ません。子どもたちは学校に行くことをあきらめました。

ニータさんは、おかあさんのやさしい顔で話を始められましたがだんだん声が大きくなり、子どもの話の頃は涙声っていました。最後にPAP21の支援がなかったらここまでこれなかった。「私たちは、絶対にこの土地を手に入れるなどを諦めず戦っていく」と彼女は力強く語ってくれました。昨年、ネグロスにツアーを行った時、現地の青少年の中にエスペランサ農園から来たマルビンとフェニリン、2人の少女と一緒に過ごしました。あの時、神父さんが食べるものがいだらうとスープやヌードルなど沢山の差し入れを持って帰るよう準備させていらっしゃいました。彼女たちは大丈夫だろか心配です。

私たちは、エスペランサ農園の人々をこれからも応援していきます。

#### 書き損じはがきでエスペランサ支援を！

送り先：地球の木事務局

締切り：2003年2月末日

\*応援メッセージも一緒に送ってください。

(相模 廣瀬 康代)



# Wakabaのコーナー

このコーナーは若い人のページです

地球の木スタディーツアーは若者たちに生涯忘れえぬ思い出と共に真摯に自分と向き合う時間を創りだします。

## 自然のままに…優しく…

乳井 晓絵



ホームスティ先の人々と筆者

なんて醜いんだろう…と思いました。それが、今振り返って、私が最も強烈に感じた感情でした。感情というより、そのときは衝撃と感じられました。

“醜い”と感じたのは、私のもつ物欲です。ネパールから日本へ帰る飛行機の中で機内誌をめぐりながら、これもほしい、こんなのもイイなあ、これはあんまりカワイくない…と、モノへの欲求のポルテージがあがっていた自分に気づきました。雑誌やテレビ、目に入るものをみて、ほしいと思ったり、自分の趣味との折り合いをつけたりするのは、ごく自然のことです。普段の生活の中では、その一回、一回は短い時間ではあるだろうけれど、ああしたい、こうしたい、あれがほしい、という感情は一日のうちに何十回も何百回もくりかえしているでしょう。それが、なんだか不自然なことのように思えたのです。もちろん、観光で買い物もしました。レストランではメニューの中からランチを選ぶのに必要以上に時間を費やしました。それでも、ネパールにいた一週間の間、私が飛行機の中で感じた

“醜い”物欲とは、かけ離れた世界に漂っていたような気がするのです。そのギャップから、私は普段の自分の姿を確認することができました。ネパールでの一

週間は、自分のために何を手に入れるか、自分をどうやってよく見せようか、というような日常生活のルーティーンから解き放たれていました。

みんなで何ができるか、友達のためになにができるか、他人のためになにができるか…そんな空気が私たちの周りに流れていきました。それは、ニルマラさん、シュレスタさんをはじめ、現地のソースズメンバーが創り出していた空気だったかもしれません。でも、それは確実にツアーのメンバーにも伝染していく、みんなが優しい気持ちに溢れていました。きっと、参加者の方々はわかってくださるとおもいます。なんとも言葉には言い表せない連帯感と分かり合おうとする気持ちが、私たちの作った“ネパールスタディーツアー”という輪の中心に向かって湧き上がっていました。とても心地よい雰囲気の中で、私たちはいろいろなことについて真剣に語り合い、性別や年齢、それぞれのバックグラウンドを分け隔てることなく向き合いました。一人一人の人間として。

ネパールは、人間を自然のままにさせる力を持っているのかも知れません。自然のままでいると私たちは優しくなれるんですね。

(2001年ネパールスタディーツアー参加)

### ビデオテープの貸し出し

地球の木で所有しているビデオです。家族で見るもよし、仲間を集めての上映会もよし。ぜひ多くの方に見ていただきたいものです。

- 神の子たち (105分) フィリピンのゴミ捨て場で生きる人々のドキュメンタリー
  - 忘れられた子供たち (102分) スモーキーマウンテンに住む十代の若者のドキュメンタリー
  - I am a child -働くかされる子供たち (55分) 世界各地の児童労働の現状と撲滅への取り組み
  - アンコールへの旅—クメールの華 カンボジアの遺跡のすばらしさ、魅力を紹介
  - PEACE NOT WAR (19分) 9・11直後のニューヨークの平和運動のドキュメンタリー
  - バナナ民衆交易の10年 (20分) オルタトレードジャパン製作
  - 地球の木・出前講座 小中学校でのワークショップ「マジカルバナナ」「貿易ゲーム」など
- その他いろいろあります。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

# Another World

～僕の知らなかつたもう一つの“世界”

佐藤 竜之



2人の子供がいた。  
どこにでもいるような2人の兄妹

しかし、彼らの瞳は、  
どこまでも暗く濁っていた。

見上げれば透き通るような青い空。

しかし、その空とは対照的に、  
彼らの顔に表情と言ふものはなかった。

何かを言いながら、彼らは近づいてくる。  
当然僕は彼らの言葉は分らない。

でも、  
何を言いたいのかは、解った。

拝むような仕草をしながら、  
古ぼけた桶をさしだす。

僕はそれを断る。

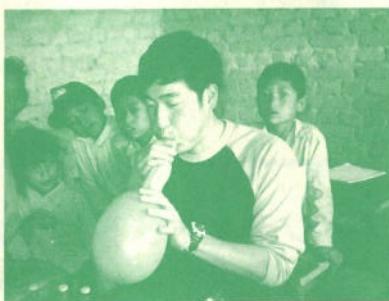
すると彼らは別の人のもとへ行く。

去りゆく彼らの後ろ姿を見た時、  
僕の中での全ての感情が

崩壊した。

あふれる涙を抑えることは出来ず、  
ただ、ただ泣くことしか  
出来なかった。

その時、ふと、マクナマラの言葉がうかんだ。



小学生と交流する筆者

## 活動日誌 (9月～11月抜粋)

9月 10日	新事務所開所式
13～20日	南北コリアと日本の子ども絵画展
28日	新事務所開所パーティ／カンボジア学習会 講師 熊岡路矢さん
29日	学習会「私たちの暮らしから考える非戦」講師 田中 優さん
10月 5日、6日	国際協力フェスティバルに参加
8日	2002年度上半期中間監査
12日、13日	よこはま国際協力まつりに参加
17日	学習会「地球的風来坊から見たアジア」講師 平 貴一さん
19日	日本ネグロスキャンペーン委員会全国交流会
22日	学習会「カフェスローを訪ねよう」
24日	NGOかながわ会議（知事への提言）に参加
11月 7日、8日	住吉高校国際理解講座
15日、22日	鎌倉高校国際理解講座
16日	学習会「真鶴の森を歩こう」

\*理事会は月に一度開催されています

「絶対的貧困を容認しているわれわれは、  
文明人としての基本的義務を  
果たしていないのではないか」  
ずっと疑問に思っていたことがあった。  
その疑問が何であったのか、  
それが分った瞬間でもあった。

「文明人としての基本的義務」とは、  
一体、何なのだろうか。

それは、

彼らに哀れみの情を持つことなのだろうか。  
彼らに施しを行うことなのであろうか。

毎日、多くの援助で“助かる”人がいることも  
事実である。

その裏で、  
救助がとどかず、死んでいく人がいるのも  
まぎれもない事実なのである。

あの兄妹に救いの手が差し伸べられる日は  
いつになるのであろう。

何年後、何十年後になるのであろうか。

そして、彼らはそれまで  
生きているのであろうか。

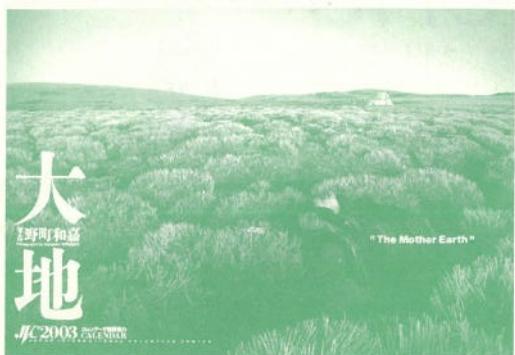
今日も、多くの人が“援助”という活動に  
携わり、多くの人を助けている。

その裏で、  
今日も彼らは、見知らぬ外国人に  
哀れみを乞う言葉を

唱えているのだろう。

(2001年ネパールスタディツアーパート)

# INFORMATION



## 「地球の木」カレンダー発売中!!

「大地」がテーマです。  
自然の雄大さ、美しさに素直に  
感動してしまいます。きっと皆  
さんに喜んでいただける素敵  
なプレゼントになることでしょう。  
(一部1,500円にて好評販売中)



### みんな おいでよ!

地球の木事務所を会場に、次のような講習会、  
学習会が催されます。ぜひご参加ください。

#### ●NPOのためのパソコン講座

初歩からチラシ作りまで、パソコン教室の専門  
の講師が個人個人に対応する2日間の講習です。

日 時 12月4日(水)／11日(水)  
18:00～20:30  
12月13日(金)／20日(金)  
18:00～20:30  
12月14日(土)／21日(土)  
13:00～15:30

主 催 地球の木／受講料など詳細はお問い合わせを

#### ●森の香りのクリスマス・リースを作ろう

日 時 12月11日(水) 13:00～15:30  
講習料 1,000円 (材料費は別)  
講 師 金澤ゆう子

#### ●トンボ玉でヘンプ・アクセサリーをつくろう

日 時 12月16日(月)、17日(火)  
18日(水)、19日(木)  
19:00～21:00  
講習料 1,000円/日 (材料費は別に  
1,000～2,000円)  
講 師 細谷 瞳

#### ●学習会 足もとの平和を考える

日 時 2003年1月18日(土)  
13:00～15:00  
講 師 小川節子 (横浜市原爆被害者の会)

### ご寄付ありがとうございました

中野重夫・山本ちなみ・安藤敏郎・木本秀一・後藤  
淳子・飯田健一・吉田賢一・今成定弘・森田敬子

### フィリピン青少年スタディツアー 参加者募集

日 程 2003年3月25日～31日  
募集人数 10名  
参 加 費 188,000円

### 寄付のお願い

不用になったノート型パソコン（ウィンドウズ98以降）があったらご寄付ください。

### 募金のお願い

- ネパール人材育成センター
- KOREA こどもキャンペーン (北朝鮮)
- カンボジア・チャイルドケアセンター  
への募金を引き続きお願いいたします。

### シティネットセミナー2003 パートナーシップで築く国際協力

日 時 2003年2月1日～3日  
場 所 産業貿易センタービル9F  
横浜シンポジア  
2月1日 (13:20～15:00) の分科会で地球  
の木からラオスの事例を報告します。

以上の講習会、寄付、募金などに関しての問い合わせ、  
申し込みは、地球の木事務局まで。  
**TEL.045-228-1575**

### お知らせ

横浜市民活動推進助成金を受けることが  
決定しました。

#### 事務局よりお願い

- 転居される場合は新しいご住所を必ずご連絡下さい。
- 会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。